



府中市の南に接する多摩市、聖蹟桜ヶ丘付近や永山付近、多摩センター付近と見どころはいろいろありますが、今回は市の中間部を多摩センターから横断してみました。

《多摩市での印象》 今回の多摩市散策で印象に残った事がある。



一つは多摩センター駅近くの「縄文の森」。ここには竪穴住居などが復元され、実際中に入って古代人の生活を体感できる。たまたま保守管理の人に出会い、復元物の傷み具合や傷む原因など熱心に教えられた。例えば茅葺屋根に生えた植物を良かれと思って抜いたりすると、深く張った根のせいで大穴が開いてしまうらしい。また、損傷箇所が増えると復元作業をした人からクレームが来るとのことで、その後はにわかには保守する立場の視点に変わり細部も注視することにした。

次は、旧多磨聖蹟記念館。明治天皇の多磨行幸を記念して昭和5年竣工のユニークな洋風建築物。建物そばには椅子に腰掛け、望遠カメラを構えた人がいた。思わず「狙いは何ですか？」と問うと「自分でも何が現れるか判らない」の返事。趣味？とは言え寒くなってきた2月の夕暮時のじっと辛抱は大変だと感心した。(竹村 稔)

《ハラハラドキドキ》 初一人旅。方向音痴の私が、一念発起。多摩市にある“揚げではなく焼きかりん糖”という発想が面白いと感じ、扱っているお店を探して



いざ永山駅へ。が、直ぐに迷子になるのでバスで行った。案の定お店が判らざら騒動。アンテナショップ・ポンテでは多摩の特産品や新しい動きについて色々聞いた。帰りもバス。車窓の景色を見ながら、帰る迄に何人かの人に聞くだろうかと。今4人。うーん。駅に着いてからも案内標識が見当たらず又聞いた。結局5人。帰宅後直ぐにお茶タイム。温かい対応をして下さった方々に感謝しつつ、美味しく新商品の「永どんクッキー」を食べた。縮んだ寿命が伸びた。

後日散策仲間で、パリーン・ポリポリ～。(山田詩子)

《都立埋蔵文化財センター》 多摩センター駅から東方面に5分ほど歩くと左側にあります。そこは展示コーナーになっていて、多摩ニュータウン遺跡から出土した縄文土器や農機具などが展示されています。

隣接した場所に遺跡庭園「縄文の村」があり、敷石住居、竪穴住居2棟が復元されています。敷石住居の室内の面積は約8㎡、竪穴住居は約20㎡と約18㎡で、竪穴住居には5～6人住めたそうです。中に入ってみると暗く電気をつけないと足元も見えません。当時の暮らしはどんなだったのでしょ。そのヒントが展示コーナーにありました。火おこしの道具や黒曜石で作ったヤリ先、土器製の食器類、藁で編んだかご等々。ヤリで動物や鳥を捕まえ、毛皮にしたり肉を食べたりしていたのでしょ。木の実を拾い料理をしていたのでしょ。



現在の私たちは電気をつければ明るくなり、蛇口を回せば水が出てガスをつければ火がつきすぐ料理が出来ます。当時の暮らしはいかに大変だったことでしょう。そんなことを思い起こせば多少の苦労は頑張れそうな気がしてきました。(井口文江)

《多摩丘陵散策》 (奥野英城) は「悠 WEB」上に掲載 ⇒

《『旧聖跡記念館』》

桜ヶ丘公園内の小高い丘の上に建つ「旧聖跡記念館」。この付近は明治天皇が行幸し猟や野点を楽しんだ地とされる。館内には明治天皇の騎馬像や歴史的文物・書などが展示されている。また天皇自らが使用し従者に下賜されたとの杖が展示されている。自然木のようなのだが如何にも重厚感があり、天皇が直接手にされたという杖は必見だ。館の外には芝生の広場があり眺望を楽しみながら一服するにはちょうど良い。のんびり寛ぐ家族連れ



の姿もある。園内の小路を歩くと人手が加えられていない自然そのままの雰囲気を感じられる。入口近くには御製の句碑がある。『春ふかき 山の林にきこゆなり けふをまちけむ 鶯の聲』自然をそのままに感じ取り詠まれたと思われる句だ。園内には若葉や花が楽しめる樹々も多い。さらに記念館から少し離れた地点まで足を伸ばし「ゆうひの丘」に立つ。この高台からは、多摩川や京王線沿いの風景が一望できる。公園内はふんわり柔らかな落葉のクッションが多く、散策していても疲れを感じさせない。(小林清次郎)

《関戸の古戦場跡》 関戸橋を南に渡り、旧鎌倉街道に入って5分位歩くと関戸の古戦場跡がある。

スマホのマップでは目的地到着となっても、道路沿いのお地蔵さんの脇にある関戸古戦場跡との案内を見ても、どこにもそれらしい所が無く、近くをうろろするばかりだった。そんな時に偶々ご近所の方が道案内をしてくださることになり、その辺一帯が全て古戦場だったことを知る。

幕府軍の北条泰家は、新田義貞率いる反幕府軍との交戦で、分倍河原に続き関戸でも敗戦して鎌倉に逃走。家臣の横溝八郎は泰家を守って討ち死にした。その墓と伝えられる塚が残っており、現在でも供養が行われている。掃除や仏具にも配慮が行き届いている様子から、大切に守られてきたことが伺われる。個人の敷地内だったが、お知り合いのお宅ということで祠の近くまで行って写真を撮ることができた。思いがけない親切と出会いに心温まる取材となった。(中井博子)



《多摩市を歩いて》 多摩川の対岸にある多摩市。多摩センター駅から坂道が多い多摩丘陵を歩きました。お昼近くに立ち寄ったのは多摩市立市民活動センター。令和4年に旧北貝取小学校を使ってできた施設です。施設内は活動施設やふるさと資料館、Kitakaiというカフェ&バーがありました。

この地で生活していた人たちの、生活道具や発掘された土器などの展示がみられる資料室を見学。農業・養蚕・炭作りなどの生活道具があり、多摩ニュータウンができる以前の営みを知ることができる場所でした。「貝取」という地名は貝の化石が多く発見されたことや一帯が馬の放牧地であったことから「飼取」の語源からも由来しているのでは？とも言われています。



縄文時代の土器や住居跡が見つかったことから、人々の長い歴史の流れを感じられる場所でした。(辻 麻美)